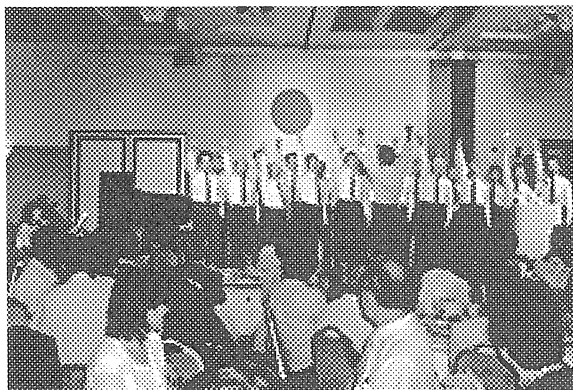




随想

2000 ドイツフェア特集



ドイツフェアでの大庭山賊男星合唱隊の演奏

思い出したハンガリーでの日々

三宅芳子

7月29日、湘南日独協会主催の「2000年ドイツフェア」が湘南ホテルで行われ、当日は土曜日また夏休み中のこと道々の混雑を考え、早めに出掛けたところ予想に反して6時一寸過ぎに着き、少々早すぎたのではと思いながら会場に入りますと、もう其処には大勢の方々が着席されており、会場のセッティングの良さと共に今夜の楽しさの漂いを感じました。湘南エールアンサンブルのメンバーからその時々に合わせて構成される「楽団シュバルベ」による耳慣れた数々の曲、「EIN PROSIT」を一同で謳い、ドイツ料理を頂きながらドイツを懐かしく思う方、関わりの深い方、また関心のおありの方々と語り合えるのは少々残念に思われた方もいらしたかも知れません。

また、ゲスト出演の「大庭山賊男星合唱隊」の名

前の面白さにたがわず、和太鼓を加えてのコーラスは豪快で迫力ある素晴らしいもので、大いに華やぎを添えてくれたように思いました。

最後に童心に返りわくわくするような福引、私は当たりませんでした。もっと良いプレゼントを頂きました。それは「シュバルベ」の方のハンガリーの衣裳と「チャールダッシュ」の曲。私にドイツでの日々のみならず、ブダペストで勉強していた当時に行った古い酒蔵やレストランで、美しい民族衣装を着た人々のかなでるジプシーヴァイオリンやカロチャなど、ハンガリーでの日々を彷彿とさせるものでした。楽しい夕べのひとつときを持つことが出来、よかったと思っています。

湘南日独協会 2000 年度活動予定

■ 11月25日(土) 13:30～

講演会 「日独の諺と小咄」

講師 高嶋泰二氏

■ 12月23日(土) 会員懇話会 18:00～

■ 2001年1月27日(土) 13:30～

講演会 (演題未定)

講師 小塩 節氏(フェリス女学院理事長)

湘南日独協会では来年度の役員を募集いたします。自薦でも他薦でも結構です。推薦される方を事務局へお知らせ下さい。受付の締切は12月末日。

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 2 . NO. 5 . 通巻11. 発行 2000. 9 . 23.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

No. 11.

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)



ドイツフェアで演奏する楽団シュバルベ

湘南日独協会 第11回例会

講演会 「近世ドイツにおける日本文化」

講師 ヨーゼフ・クライナー氏(ボン大学教授)

日時 10月28日(土) 13:30～15:30

会場 鎌倉商工会議所3F会議室

(鎌倉駅西口徒歩5分・鎌倉市役所前)

会費 湘南日独協会会員 1,000円

一般……………2,000円

今回は茶菓はありません。当日払い。

第2の故郷思い出す感動

会員 山田徹雄 (跡見女子大教授、伊藤塾代表)

昨年、ドイツフェアに参加した際、開演時間には既に酒宴が始まっていたことを思い出し、今回は開場の6時に到着したところ、それでももう会場のいたるところで乾杯が行われていた。湘南エールアンサンブルの奏でるヴィーン風、チロル風、バイエルン風の素晴らしい演奏に耳を傾けながらいただく生ビールやワインの喉越し、カスラーやソーセージの味を堪能できるこの会は湘南の夏の夜をひときり魅力的なものにしてくれる。宴が進行し、Steinsch氏のユーモアあふれるスピーチは会場を沸かせた。ケルン出身の彼には、ドイツフェアがバイエルン色の濃い、従って南ドイツに偏向したものに映ったようである。私自身は、南ドイツのニュールンベルクに留学していただけに、ビールも音楽も第二の故郷を思い出させる感動的なものであったが、今回同行した妹夫婦は長いこと北ドイツのデュッセルドルフに住んでいただけに、南ドイツ風のやや田舎くさいパーティに思えたようであった。しかも最後の締めくくりに歌った『わかれ』は、バイエルン方言まるだしの歌詞で書かれたものなので、私には郷愁を感じさせる曲であり、ドイツそのものであるにもかかわらず、妹夫婦にいわせるとあれは『ドイツ民謡』ではなく『バイエルン民謡』ということになる。

収穫は理解してくれる友達が増えたこと

会員 斉藤敏子

湘南日独協会が発足してもう2年になります。川本様にお誘いを受けた当時は戸惑いました。でも、発起人の方々の数や肩書きをみて驚きました。短期間にここまで内容を充実させたのも、この方々のお力添えと熱意の賜と思っております。

実は私もドイツには、思い出があります。未だ東西の壁がある頃ですが実妹がプロではありません



随想

2000ドイツフェア特集

が、歌のレッスンで毎年夏ウイーンの音楽大学に行きました。自炊ですのでメイドサーバント宜しく私も一緒に参りました。慣れて来ますと買物はやはりミュンヘンでした。

ワイマールとは一寸街並みは違いますが、すばらしい音楽を聞き乍ら食べて、飲んで、お喋りをして夏の夜の一時を過ごす、私は7月29日のドイツフェアに、主人が都合が悪いのでお友達を誘って出席しました。梶井さんのソプラノは相変わらずすばらしく、石塚さん、板内さん3人が各テーブルを廻ってくれました。

友達は湘南でこんな雰囲気味わえるなんてと感動、感激でした。勿論、私も楽しい一夜を過ごすことが出来ましたが“2000年ドイツフェア”の一番の収穫は、この協会を理解して呉れた友達が一人ふえたこと、そしてもっともっと増えるであろうという予感と余韻を残し会場を去りました。

はじめてドイツフェアに参加して

会員N0149 新井正昭

湘南日独協会に入会させていただきましたが、まだ会合には一度も出席したことはなく、今回のドイツフェアの予告にメリーウィドウのアリア「ビリヤの歌」を目ざとく見つけた妻にせがまれて参加した次第です。当日午後6時開場の5分前に到着し受付を済ませて入場券の半券に名前を記入して景品が当たるよう祈りながら抽選箱に入れた。会場に入って驚いた。開演まで30分以上あるのに殆ど満席だ。さすが日独協会のメンバーの方々は時間に厳しいと感じ入った。やっと奥の方のテーブルに空席を見つけたら、なんとそこに会社の先輩の中橋様が座っていた(会社の短い昼休み時間にドレミも分かっている私たちを集めて根気よく合唱の楽しさを教えてくれた恩人)。知人は一人も居ないと思って不安が一杯だったのが一遍に吹き飛んだ。忙しくてまだ会

2000ドイツフェア特集



随想

員にはならないそうだが、結婚されたお嬢様とご一緒の出席だった。お嬢様もお話のとても楽しい方で「日独協会のパーティと聞いたので半分はドイツ人がいる」と思つてこられたそうだ。ドイツ語をテレビで勉強中だそうで、ドイツ語教師がドイツ語で自己紹介しているときには同時通訳をしてくれた。

さて時刻となり中央の舞台に若くて美しい二人のバイオリストと一人のピアニストからなる楽団「シュバルベ」が登場し軽快な音楽が始まった。(株)ヤマオカ提供のドイツ白ワインが各自のグラスに注がれ「Ein Prosit」を全員で合唱した。もはやここは日本ではない。ミュンヘン(小生は行ったことがないが)のビアホールにいる気分である。司会者に紹介されてソプラノ歌手の梶井智子さんが登場した。楽しいドイツの歌を次々に歌ってくれた。全部暗譜なのには感心した。司会者の流暢な司会振りにも感心した。本職はピアニストだそうで会員の方々の奥行の深さにも感心させられた。休憩に入り次々に出てきていた料理を頂いた。生ハム、サラダ、じゃがいも……皆美味しかったが何と言ってもメインの鶏肉の赤ワイン煮の柔らかさと味の良さは天下一品だった。

後半に入りゲスト出演の「大庭山賊男星合唱隊」のハーモニーに酔いしれ、最後にお目当ての「ビリヤの歌」で演奏会は終わり福引きに入った。一泊宿泊券など豪華賞品の当たり番号が次々に読み上げられて行くが自分の番号はかすりもしない。ワイマール日独協会から贈られた品々の時に104番と妻の番号が読み上げられた。跳び上がって喜んだ妻が受け取ってきた物は銀色のずっしりと重いプレートで「SAALE・ORLA・KREIS」と書かれてあった。しばらくして今度は隣の兼松さん(中橋先輩のご令嬢)がドイツワインを当てられた。留守番のご主人にお土産が出来たと喜んでおられた。美味しいワインと料理に満足しその上福引きにまで当たって満ち足りた気分が家路についた。来年もまた来ます。